



I 第25週の発生動向 (2026/6/15~2026/6/21)

1. 水痘について、中南保健所及び下北保健所管内の報告数が新たに**注意報レベル**となりました。
2. 手足口病の報告数が増加しています。予防法等については、先週の「感染症の窓」をご覧ください。
3. 日頃から手洗いや咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「咽頭結膜熱」です。

最終ページに掲載しています。

II 第25週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

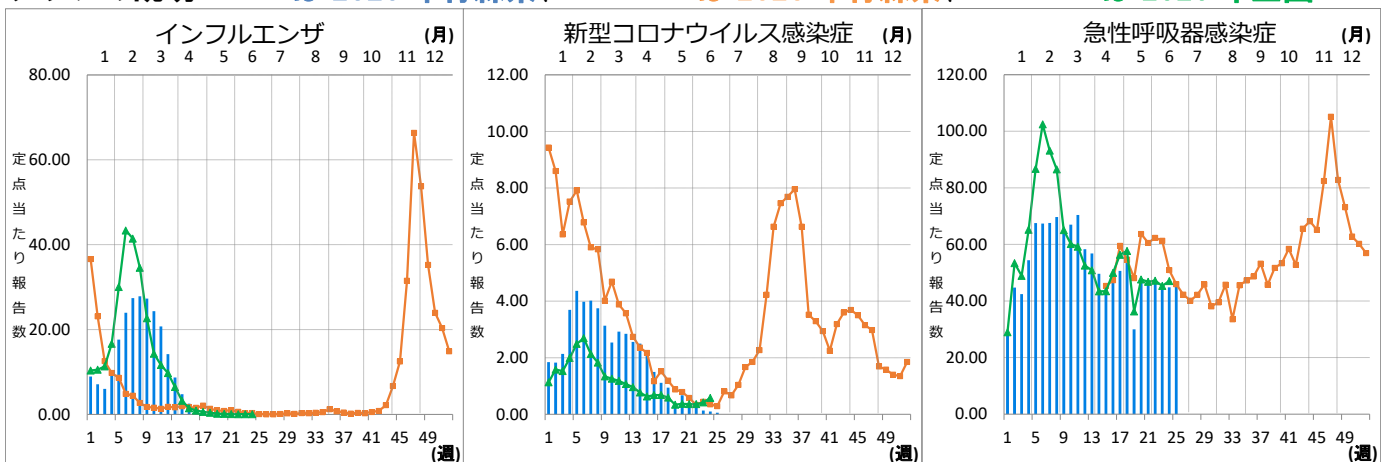
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報、「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減 数
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性呼吸器感染症															
インフルエンザ	2	0.18							1	0.11			3	0.06	-2
新型コロナウイルス感染症	1	0.09			1	0.10					1	0.17	3	0.06	-2
急性呼吸器感染症	823	74.82	383	38.30	364	36.40	183	30.50	290	32.22	385	64.17	2428	46.69	143
小児科															
RSウイルス感染症	1	0.17	1	0.17	2	0.29							4	0.12	2
咽頭結膜熱	2	0.33	1	0.17	5	0.71	1	0.20					9	0.26	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	2.33	8	1.33	15	2.14	3	0.60	13	2.17	1	0.25	54	1.59	-4
感染性胃腸炎	14	2.33	9	1.50	25	3.57	22	4.40	2	0.33			72	2.12	-11
水痘			6	1.00	2	0.29					6	1.50	14	0.41	4
手足口病	4	0.67	9	1.50	18	2.57			8	1.33			39	1.15	25
伝染性紅斑							1	0.20					1	0.03	0
突発性発しん	2	0.33			3	0.43			2	0.33			7	0.21	-3
ヘルパンギーナ									1	0.17			1	0.03	0
流行性耳下腺炎			1	0.17									1	0.03	1
眼科															
急性出血性結膜炎															0
流行性角結膜炎															0
基幹															
感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
クラミジア肺炎															0
細菌性髄膜炎															0
マイコプラズマ肺炎											14	14.00	14	2.33	7
無菌性髄膜炎															0

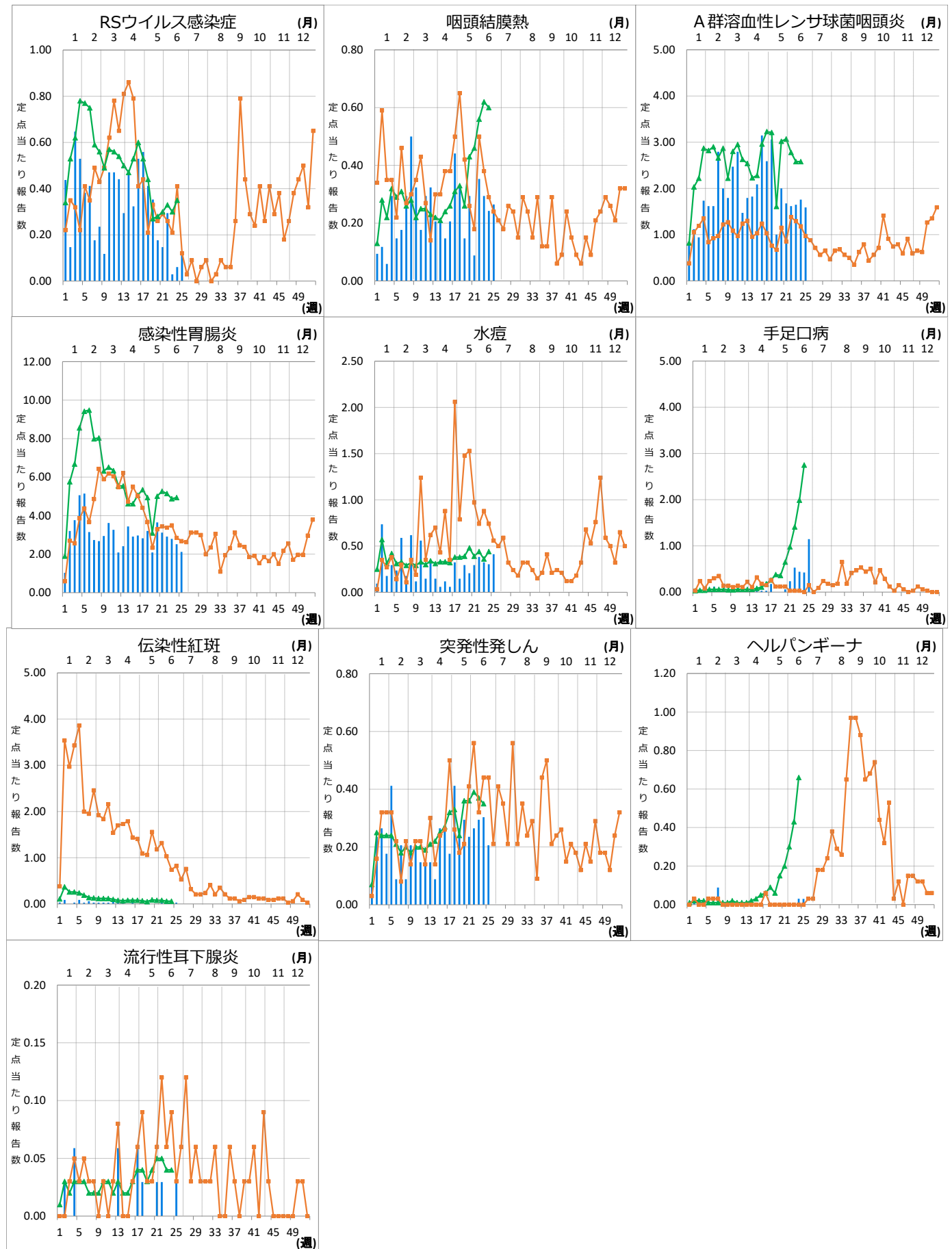
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第25週、ただし全国は前週)

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



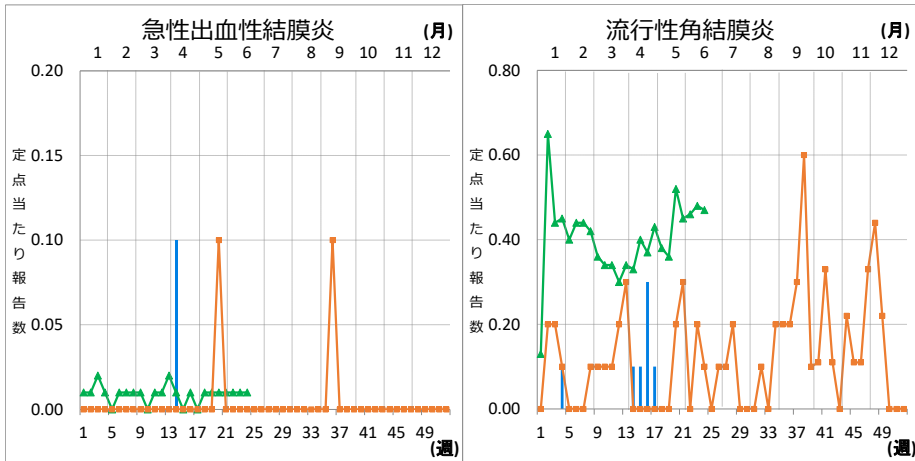
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第25週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



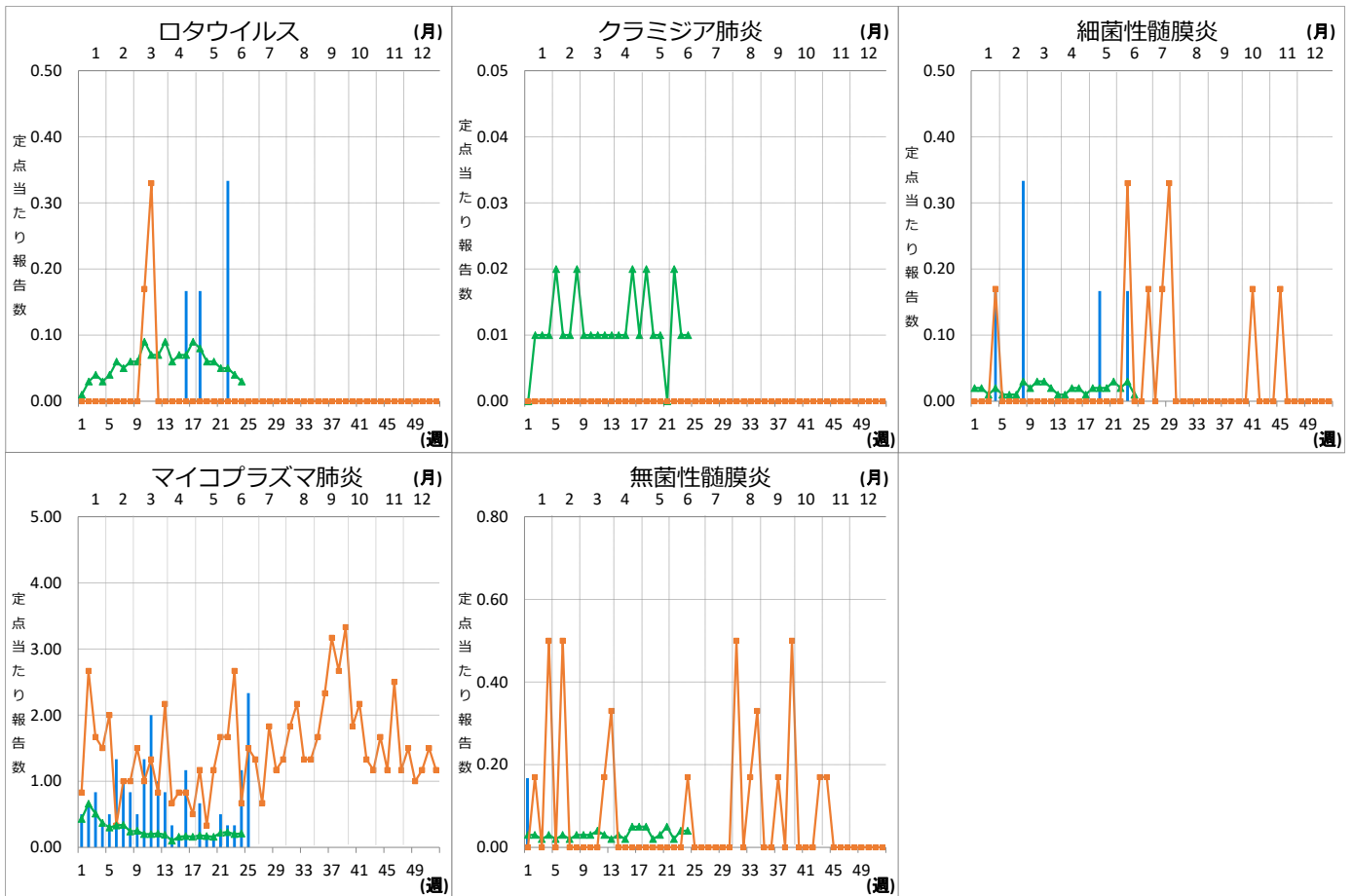
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第25週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第25週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ← は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国

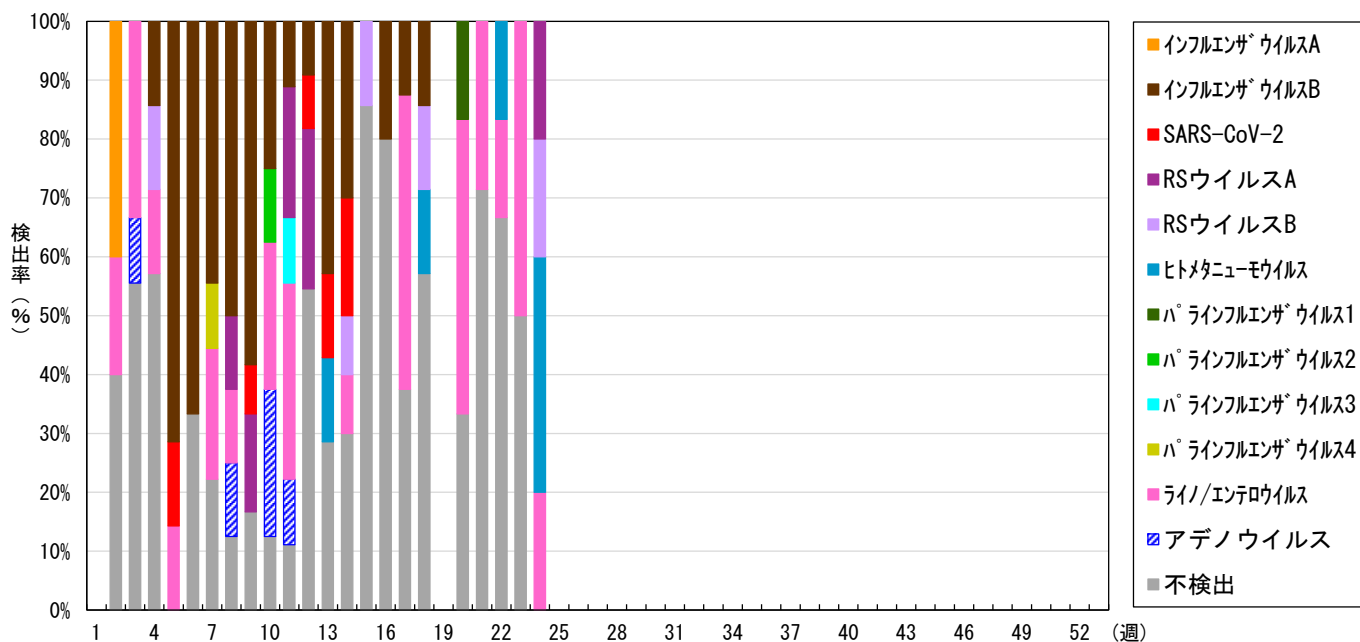


Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第18週～25週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週
提出検体数	7	0	6	7	6	8	5	5
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	0
インフルエンザウイルスB	1	0	0	0	0	0	0	0
SARS-CoV-2	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	1
RSウイルスB	1	0	0	0	0	0	0	1
ヒトメタニューモウイルス	1	0	0	0	1	0	2	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	1	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	0	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	0	0	3	2	1	4	1	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
不検出	4	0	2	5	4	4	0	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	5

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～24週)



Ⅶ 全数把握対象疾患発生状況（第 25 週）

・結核（二類感染症）：八戸市 2 人、西北 1 人

（2026 年計： 41 人）

Ⅷ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026 年第 22 週～2026 年第 25 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
22	侵襲性肺炎球菌感染症1人 梅毒1人	レジオネラ症1人	細菌性赤痢1人			つつが虫病1人
23		腸管出血性大腸菌感染症1人	侵襲性肺炎球菌感染症1人			結核2人
24	腸管出血性大腸菌感染症1人 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症3人 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1人 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人			結核1人	
25			結核2人	結核1人		

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第24週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	6476	37	1074	18	8	323	113	8	66	3

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	マラリア	レジオネラ症
累積報告数	1	4	78	2	56	35	149	2	17	841

分類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群
累積報告数	4	234	93	446	10	221	4	73	646	418

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	多剤耐性緑膿菌感染症	梅毒	播種性クリプトкокクス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
累積報告数	19	277	32	1534	390	70	5127	85	44	43

分類	五類	五類	五類	五類
疾病名	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	3308	2	529	8

青森県（2026年第1週～第25週までの累計）

分類	二類	三類	三類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	つつが虫病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
累積報告数	41	2	12	3	1	1	1	4	2	7

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	百日咳
累積報告数	1	4	10	6	7	18

XI 病原体検出情報

つつが虫病疑い患者（血液及び痂皮、5/25）・・・*Orientia tsutsugamushi*(Karp型)：下北1人

Ⅷ 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第25週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第25週	報告なし		

2026年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月				7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23週	24週	25週	26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	6	2	3	0	0	0								15
	発症者数	37	44	69	23	42	0	0	0								215
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	1	3	4	0	1	0								13
	発症者数	92	0	30	73	63	0	10	0								268
障がい関係施設	件数	1	0	1	0	0	0	0	0								2
	発症者数	20	0	18	0	0	0	0	0								38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0								0
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0								0
計(月別)	件数	7	2	8	5	7	1										30
	発症者数	149	44	117	96	105	10										521

感染症の窓

咽頭結膜熱は、アデノウイルスの感染によって引き起こされる、小児に多い急性のウイルス感染症です。全国的に6月頃から徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなる感染症ですが、一年を通して感染が見られます。

主な感染経路は、飛沫感染や接触感染です。かつてはプール利用時の接触やタオルの共用で流行することが多かったため、「プール熱」と呼ばれていましたが、プールとは関係なく一年中発生するため、現在では咽頭結膜熱という呼び方が主流となっています。

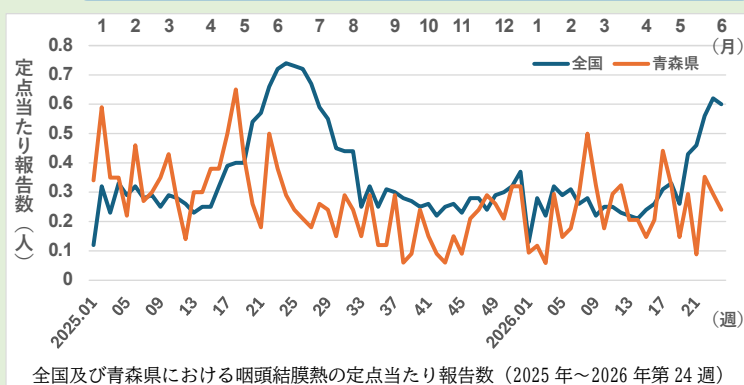
潜伏期間は5～7日で、発熱、咽頭炎（咽頭発赤、咽頭痛）、結膜炎が主症状です。

高熱が比較的長く（5日前後）続くことがありますが、特別な治療法はありません。ほとんど自然に治りますが、吐き気や頭痛が強かったり、せきが激しかったりする時は、早めに医療機関に相談してください。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要になることがあります。

咽頭結膜熱は、流水と石けんによる手洗い、うがいなどで、ある程度、感染を予防することができます。流行時には、感染者との密接な接触、タオルの共用は避けましょう。

また、小児の集団生活の中では感染が拡大しやすいため、保育施設などでは、職員を含め体調不良者は出勤・登園を控えることや、手すりやドアノブ、おもちゃなど多くの人が接触する場所や物の消毒、排泄物の適切な処理等も、感染予防策として重要です。

咽頭結膜熱



○詳しい情報はこちらをご覧ください。☞ [咽頭結膜熱\(厚生労働省 HP\)](#)

